

編集後記

研究室短信

この度、『社会学ジャーナル』第42号を刊行することになりました。本号は、2名の教員と2名の研究員、大学院生に寄稿していただきました。本誌は来年度から査読体制に移行し、学術誌としての質的向上を図っていく所存です。詳細については巻末の投稿規定をご覧ください。お忙しいなか、本誌のために論文を執筆していただいた皆様には、この場を借りて篤く御礼申し上げます。また、読者の皆様には、今後とも厳しい御批判と御指導を賜りたく存じます。

社会学研究室のさらなる発展を願いつつ、『社会学ジャーナル』第42号をお届けします。

大学院人文社会科学研究科国際公共政策専攻における修士論文の提出者と題目は以下の通りです。

- 謝 晋 「School-based Curriculum を通じた教育 NPO と学校の相互作用
—— JA 中国を事例にして」
- 梅澤 光由 「芸術を通して開かれる公共性への可能性 —— 中央線沿線における都市型アートプロジェクト・TERATOTERA を事例として」
- 齊藤 亜澄 「自己啓発の吸引力 —— 就職活動における学生の語りから」
- 王 晶 「被爆者ではない語り部はどう語ればよいか —— 平和活動に携わる非体験世代の技法と工夫」
- 靳 施思 「抗日戦争映画の新局面 —— 現代中国社会と「南京！南京！」」

※

平成28年度社会学研究室の各教員の学類および大学院において開設した授業科目は以下の通りです（社会学類／大学院人文社会科学研究科）。

五十嵐泰正 = 地域社会学，社会学研究法Ⅰ，社会調査実習Ⅱ a／国際公共政策論，社会学基礎理論，都市社会学Ⅰ，都市社会学演習Ⅲ，都市社会学特別演習Ⅲ

ウラノ・エジソン = International Social StudiesⅠ，Seminar(A,B,C,D,E,F)，Comparative Society，Social Issues in Contemporary Japan，Public Policy，Introduction to Social Sciences，Living in Ja-

pan as Foreign Student (以上・G30担当科目), 社会学演習Ⅷ a, /国際公共政策論, 社会学基礎理論, 国際社会政策論Ⅰ, 国際社会政策論演習Ⅲ, 国際社会政策論特別演習Ⅲ (以上・大学院人文社会科学研究科国際公共政策専攻), ラテン・アメリカ研究演習Ⅰ(A・B), 地域調査法Ⅲ, 公共政策論Ⅴ (以上・大学院人文社会科学研究科国際地域研究専攻)

奥山 敏雄 = 病いと死の社会学, 社会学演習Ⅱa, 社会学研究法Ⅱ/社会の表象 - 社会学入門 - (科目担当及びコーディネーター) 社会学基礎理論, 医療社会学Ⅰ, 医療社会学演習Ⅲ, 医療社会学特別演習Ⅲ

葛山 泰央 = 知識社会学, 社会学研究法Ⅱ, 社会学演習Ⅲ a, 社会学外書講読Ⅰ/社会学基礎理論, 知識社会学Ⅰ, 知識社会学演習Ⅲ, 知識社会学特別演習Ⅲ

樽川 典子 = ジェンダー社会論, ジェンダーと刑法, 社会学演習Ⅵ a, 社会学外書講読Ⅱ/国際公共政策論, 社会学基礎理論, 家族社会学Ⅰ, 家族社会学演習Ⅲ, 家族社会学特別演習Ⅲ

土井 隆義 = 現代社会論, 社会学研究法Ⅲ, 社会学演習Ⅶ a, 社会学入門/逸脱行動論Ⅰ, 逸脱行動論演習Ⅲ, 逸脱行動論特別演習Ⅲ

黄 順姫 = スポーツ文化論, 社会学研究法Ⅲ, 社会学演習Ⅴa, グローバル共存・共生 (全学類自由科目特設講義担当, 及びコーディネーター) /社会学基礎理論, 教育社会学Ⅰ, 教育社会学演習Ⅰ, 教育社会学特別演習Ⅰ, 社会調査実習 (大学院教育研究科修士社会科教育コース), 大学と学問 (全学類特別科目メインコーディネーター), 社会の表象 - 社会学データ入門 -

野上 元 = 社会学基礎理論, 戦争と社会, 社会学研究法Ⅲ, 社会学演習Ⅰ a /社会学基礎理論, 歴史社会学Ⅰ, 歴史社会学演習Ⅲ, 歴史社会学特別演習Ⅲ

森 直人 = 社会階層論, 社会学演習Ⅸ a (以上・社会学類) /社会学基礎理論, 労働社会学Ⅱ, 労働社会学演習Ⅲ, 労働社会学特別演習Ⅲ (以上・大学院人文社会科学研究科), 社会学特講Ⅰ・Ⅱ, 公民教育研究法Ⅰ・Ⅱ (以上, 大学院教育研究科)

全 教 員 = 卒業論文演習, 卒業論文

このほか, 他専攻にご所属の先生方 (敬称略) により, 学類共通科目として, 以下の授業科目をご担当いただきました.

岡上 雅美 = ジェンダーと刑法

海後 宗男 = メディア・コミュニケーション論

木下 太志 = Population and Development (人口と開発)

清水 論 = スポーツ社会学

白戸健一郎 = 情報文化概論Ⅱ

仲田 誠 = [トルツメ⇒情報文化論Ⅰ・Ⅱ] 情報文化概論Ⅰ

福原 直樹 = ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ ジャーナリズム特別演習

前川 啓治 = 文化・開発論

今年度非常勤講師として, 以下の先生方 (敬称略) にご出講いただきました.
篤くお礼申し上げます.

高村 学人 (立命館大学) = 法社会学Ⅱ

堀 智久 (名寄市立大学) = 共生社会学Ⅲ

山本 信次 (岩手大学) = 環境社会学 (以上, 社会学類)

岸 政彦 (龍谷大学) = 共生社会構想論Ⅱ

佐藤 香 (東京大学) = 社会調査方法論Ⅱ (以上, 大学院人文社会科学研
究科)

投稿規定

(2017年4月改正)

- 1 筑波大学大学院人文社会科学研究所国際公共政策専攻所属の教員及び大学院生等は、『社会学ジャーナル』（以下「本紀要」という。）に論文等を投稿することができる。大学院生等による投稿については、原則として、修士論文審査に合格していることを要件とする。
- 2 投稿される論文等は、未発表のものに限る。他の学術雑誌等に投稿中の論文は、本紀要に投稿することができない。
- 3 本紀要に掲載された論文は、筑波大学電子図書館（つくばリポジトリ）において公開するものとする。
- 4 掲載原稿は、研究論文、研究ノート、資料紹介、書評論文、書評とする。その他については、本紀要の編集委員会が決定する。
- 5 編集委員会は、本専攻所属の教員等に対して、論文その他の投稿を依頼することができる。
- 6 使用言語は、原則として、日本語又は英語とする。その他については、編集委員会が決定する。
- 7 外国語による執筆を希望する場合には、投稿者は、自己の責任において、当該言語を母国語とする者による言語上の校正を受けた上で、投稿することができる。
- 8 投稿原稿が日本語の場合には、欧文（英文）タイトルを付すること。
- 9 論文及び研究ノートについては、冒頭に英文の要約（200字程度）を含めること。
- 10 投稿原稿は完成原稿とし、編集委員会あてにハードコピーを3部及び研究倫理についての所定の様式誓約書を1部提出すること。併せて、同委員会あてに電子ファイルを送信すること。
- 11 本紀要は原則的に、レフェリー2名による査読を実施する。大学院生による投稿については、草稿が投稿に足る水準に達しているか否かを指導教員が確認し、所定の用紙に署名・押印したうえで、投稿原稿に添えて期日までに編集委員会に提出する。掲載可否は編集委員会が決定する。
- 12 執筆者には論文等の抜刷を50部配布し、それ以上の抜き刷りを必要とする場合は、実費を徴収する。

その他不明な諸点については、下記の編集委員会にお問い合わせください

連絡先：『社会学ジャーナル』編集委員会
筑波大学大学院人文社会科学研究所 社会学研究室
305-0006 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
電話番号：029-853-4247
ファクス：029-853-4098